

英会話を始めるなら今！お得なキャンペーン実施中【NOVA】

NOVA 英会話 入学金 0円 +5%OFF +3万円プレゼント

ニュース

トップ | トピックス | ジャーナル | 速報 | 社会 | スポーツ | ショウビズ | 政治 | 経済 | サイエンス | 国際 | 業界レポート (PR)

今日のトピックス

・日本道路公団の藤井治芳総裁、解任は妥当だと思いますか

ニュースセレクト

子供が子供を殺す(2) - 死刑執行:子供にも成人向けの罰を課すべきか -



長崎の男児誘拐殺人事件など少年による凶悪事件が世間に衝撃を与えている。少年法の14歳は妥当なのか、犯罪を起こした子供たちを今後どう扱うべきか...

事件の例(クリックしてください)

アメリカで365人の少年犯罪者に死刑が執行された。この365という数字を多いと思われるだろうか。少ないと思われるだろうか。

アメリカで少年犯罪への死刑執行が開始されたのは1642年。それから約360年、365人が少年犯罪で死刑となった。成人犯罪の死刑者の1.8%に当たるが、成人のほうの数字が膨大なため、この1.8という数字は決して少ないとはいえない。

★厳罰化の動き

アメリカの犯罪白書を見てみよう。1994年の少年犯罪数は、85年に比べて13万7000件増加している。殺人は35%、強姦は48%の増加という恐ろしい数字だ。

にも関わらず、ここ数年、少年犯罪に対する罰はどんどん厳しくなっている傾向にある。この10年の間に、ほとんどの州で少年法適応の年齢が引き下げられている。

少年犯罪が減少傾向なのに、なぜ厳罰化も進んでいるのか。

少年法が厳罰化されたから犯罪が減ったと見ることもできないことはない。だが、それを強力で裏付けるだけの明らかなデータは見当たらない。

もっとも、厳罰化の一方でアメリカの法曹界は少年犯罪者の死刑には批判的だ。法律は18歳以下にさまざまな制限を課している。選挙権がない、陪審員になることができない、契約書を交わすことができない、医療判断を下してはいけない、などなど。

さらに昨年、アーカンソー州で行われたパネルディスカッションで、ウィレー・ブランドン・ジュニア裁判長は、精神障害者には死刑を課せないことになっているのに、少年犯罪者に死刑が許されているのはおかしいと主張した。

「私には、精神障害者も子供も、未熟という点ではそう変わらない」。子供と精神障害者を同じレベルで論じるのはどうかとも思う。だが、アーカンソー大学精神医学のクリス・ランブス教授は、子供やティーンエイジャーの脳は、その行動によってどういう結果が引き起こされるか、ということのを深く考えるという力が完全に備わっていないと発表。

とはいうものの、疑問も残る。ケースDのナポレオンは事件直後から、自分の行動を深く悔やみ、自殺しようとしてまで考えたと報道されている。死刑判決がくだった時も、自分は死刑にされて当然と自分の罪を素直に受け入れている。

2002年の世論調査では、全米69%の成人が少年犯罪者への死刑に反対している。死刑執行の歴史のあるオハイオ州の今年の世論調査では、62.8%の人が少年犯罪者の死刑禁止に賛成しており、しかも83.5%の人が真犯人ではない人が間違っただけで死刑になったこともあるのでは、という疑惑を抱いている。

被害者家族の無念さは想像を超えるものがあると思う。だが、私は罪を犯した少年の服役中の更生プログラムをもっと発展させ、何かしらのかたちで社会に貢献させることをめざすのが本来のありかたではないか、と思う。いささか極端な例になるが、映画「キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン」をご覧になった方は多いだろう。